

100年のあゆみ

上水道の創設と普及

～戦災からの復旧と水源開発～

■福岡市水道事業の創設

明治以降、人口の増加と生活の近代化は、水需要の増加とともに井戸水の水質低下を招き、コレラや赤痢などの流行は、人々の生活に悪影響を及ぼしました。そのため、公衆衛生の向上と都市発展の観点から水道の創設が望まれ、市制が施行された明治22(1889)年、英国人技師バルトンによる上水道計画調査が行われました。財政上の理由などから直ぐには実現しませんでした。大正12(1923)年3月1日に、着工から7年もの歳月をかけて、曲淵ダムや平尾浄水場をはじめとする一連の施設が完成し、本市の水道事業がスタートしました。

大正12年、福岡市の総人口143,000人のうち、35,000人への給水から始まった水道事業ですが、その後、水道の便利さや衛生面で優れている点などが認められ、また市町村合併による都市化の進展などによって、需要が急速に増えていきました。

戦後も人口の急増に加え、経済成長に伴う生活様式の変容や産業の発展により、水需要は増加の一途をたどりました。他方で、政令指定都市で唯一、市域内に一級河川を有しないという地形的に水資源に恵まれない環境にあったため、ダムの建設に加え、下流の川の水をダムに揚水貯留するなど、様々な工夫を凝らし水資源開発を行いましたが、常に水不足に悩まされていました。



第1回拡張工事時の
曲淵ダム
〔昭和6(1931)年頃〕

年表

「上水道の創設と普及」 明治22年～昭和20年

- | | |
|-------------|--|
| 明治22(1889)年 | 福岡区を福岡市と改め、市制を施行
バルトンらによる福岡市上水道計画調査実施 |
| 大正2(1913)年 | 上水道創設事業認可
水道事務所を設置 |
| 大正12(1923)年 | 曲淵ダム・平尾浄水場完成、通水開始 |
| 昭和20(1945)年 | 西畑ダム建設を戦局により中止し、塩原取水
工事に切替
福岡大空襲により水道管に甚大な被害を受ける |



英国人技師
ウィリアム・キンモンド・
バルトン



水道の完成を伝える
当時の新聞



上水の槌(しおり)



福岡市水道創設着工当時の水道事務所員